

2026年度 水資源・環境学会 研究大会

テーマ論題部 要旨

流域圏の視点からみた大阪湾の環境再生とその課題

三輪 信哉

(大阪学院大学 国際学部)

明治以降、近畿圏の水利用は大阪に集中し、河川改修や新淀川の開削によって水系を分離しつつ都市発展が進んできた。こうした歴史的経緯のもとで治水技術は高度化したが、災害リスクの増大や経済優先の都市構造は大きく変わっていない。さらに、淀川流域から大阪湾への汚濁負荷は依然として大きく、生活排水や都市活動、埋立の影響により、水質悪化や貧酸素化の改善は十分に進んでいない。改善には地形改変など大規模対策が必要とされるが、効果や実現性には課題が残る。また、人々の生活と水環境の関係は希薄で、流域圏全体として問題が認識されにくい。今後は流域圏の視点から大阪湾を捉え直し、生態系の回復と人間活動の調和を図る持続的な環境再生が求められる。